

伊那市 50 年の森林（もり）ビジョン策定委員会 会議概要	
会議名称	第 1 回 伊那市 50 年の森林（もり）ビジョン策定委員会
開会日時	平成 26 年 10 月 15 日（水）午後 3 時
閉会日時	平成 26 年 10 月 15 日（水）午後 5 時
場 所	伊那市役所本庁 5 階 501・502 会議室
出席者	<p>策定委員アドバイザー 独立行政法人 森林総合研究所 理事 鈴木 信哉 林野庁中部森林管理局 南信森林管理署長 田中 徹</p> <p>策定委員 信州大学農学部教授 植木 達人 独立行政法人森林総合研究所 領域長 山田 茂樹 伊那地区 橋爪 俊夫 高遠町地区 伊東 一 伊那地区 加納 ます枝 高遠町地区 伊藤 のり子 伊那市西春近諏訪形地区 区を災害から守る委員会 副会長 酒井 卓実 株式会社 DLD バイオエネルギー事業部 木平 英一 NPO 法人 伊那谷森と人を結ぶ協議会 理事長 稲邊 謙次郎 有限会社 平澤林産 代表取締役社長 平澤 照雄 上伊那森林組合参事 森 敏彦 上伊那森林組合参事 バイオマス・エネルギー室長 寺澤 茂通 国土交通省中部地方整備局天竜川上流河川事務所 砂防調査課長 鈴木 豊 長野県上伊那地方事務所林務課普及係長 小林 健吾</p> <p>伊那市長 白鳥 孝</p> <p>事務局 6 名</p>
欠席者	<p>策定委員 長谷地区 市ノ羽 茂則 上伊那木材協同組合 理事長 都築 透 NPO 法人 森の座 理事長 西村 智幸</p>
議 事	(1) 伊那市の森林の状況について (2) 伊那市 50 年の森林（もり）ビジョン策定委員会について (3) その他
資 料	(1) 会議次第 (2) 伊那市 50 年の森林ビジョン策定委員会委員名簿 (3) 伊那市 50 年の森林ビジョン策定委員会設置条例 (4) ファイル資料 1 冊

1. 開会

2. 委嘱

机上にて委嘱書の交付

3. 市長挨拶

多面的な機能をもっている森林を、もう一度この伊那市からきちんと見直しをしようということから、「50年の森林」が始まった。難しい課題ではあるが、委員の皆様からいろいろな意見をいただいて、50年というスパンの中で将来に行き渡っての森づくりをご提案いただきたい。大変壮大なビジョンであり、息の長い取り組みではあるが、趣旨をご理解いただいて、ご協力を賜ることをお願い申し上げます。

4. 委員・アドバイザー紹介（事務局）

5. 伊那市50年の森林ビジョン策定委員会について（事務局）

「伊那市50年の森林（もり）ビジョン策定委員会設置条例」に沿って説明。

6. 正副委員長の選出

委員の互選により選出

委員長：植木達人委員

副委員長：都築透委員

委員長あいさつ

私たちがひとつひとつ伊那市の状況をつぶさに見ながら、できるかぎり将来の明るい展望をこの委員会で示しながら、それが実現するような仕組みを作っていけたらおもしろい。これから委員会を始めていくが、色々な立場から様々な意見を出していただければ、中身の濃い提言ができるのではないかと思います。

7. 諮問（市長から委員長へ）

伊那市50年の森林ビジョンについて意見を求める。

8. 協議事項

事務局より、伊那市の森林、林業、林産業の現況を説明。

その後、委員より伊那市の現況における課題を発言いただいた。

【森林資源に関する課題】

- ・資源をどう利用するか。
- ・年齢構成の偏り。
- ・民有地に課題あり。（里山、平地林）
- ・手が入らない森林や、間伐初期の森林の備蓄量が低い。
- ・林地に合った樹種であるか。

- ・カラマツの利用方法や、伐採跡地をどう固めるか。(防災)
- ・自然をそのまま壊さず、次世代へ繋げていくことができればよい。
- ・市民と森林、林業との関わり(人と山との関係)が薄すぎる。
- ・指導者を指導する者を育成すべき。
- ・山は儲からない、手間がかかる、という認識。
- ・成熟期の森林資源の収穫、その後の山づくりについて。

【林業活動に関する課題】

- ・成熟期の森林資源を皆伐するのだろうか。
- ・皆伐後の跡地をどうするか。
- ・人材(担い手)の不足。

【木材産業に関する課題】

- ・地元の資源は地元で活かせるように取り組む。
- ・木質バイオマスの取引相手と価格を細かく考えていく必要がある。
- ・50年後、いかに山に良質の材を残せるか。

【市民生活と森林に関する課題】

- ・獣害の問題。
- ・零細所有者の森林整備、森林管理。
- ・健全で強い森林を育てる。(防災・財産)
- ・木材の地産地消。
- ・人工林の保護・手入れ。
- ・地域の林業と国有林との関係。
- ・民間との協働。

【その他】

- ・伊那市ならではの特徴を際立たせる視点が重要。
- ・持っている資源を、知恵と技術で自慢できるような仕組みにしていく。
- ・植栽結果をデータベース化して活用する。
- ・森林の多様性・豊かさが発揮されるような仕組みづくり。
- ・地域資源の活用を、地域でバックアップする。
- ・資源としての森林を、林業活動という複合的な視点から考えていく。
- ・川上、川中、川下の連携をコーディネートできるような人材の育成。

9. その他(事務局)

次回開催期日 平成27年1月27日(火)を予定。

10. 閉会(事務局)